

まいどさん

足寄町商工会青年部

H30.11.1 No.179

経営研修委員会 森

☆青年部インタビューリレー☆

青年部員一人ひとりのことをより深く知ってもらうためにリレー形式で紹介をしていきます。

第7回は佐野健士部員・儀間美沙子部員です。



佐野 健士（さの けんじ）

1978年 幕別町札内生まれ

1997年 帯広柏葉高等学校 卒業

2002年3月 東京国際大学

人間社会学部 卒業

2002年4月 足寄町役場 入職

2017年2月 足寄町役場 退職

2017年4月 合同会社 FeetMeet 設立

2018年3月 ふるさとプロデューサー育成
支援事業（中小企業庁）修了

～約15年勤務した役場を辞めて開業した理由や経緯は？

15年のうち約半分の7年くらいを観光系の担当部署を経験させてもらい、足寄町が持っている魅力を地域経済に変えていく可能性がまだまだあるように感じていました。

役場職員としての最初の10年くらいを地域振興だったり町おこしについて考えさせてもらえる部署に居たのが、今に繋がっているように思っています。

10年経ったくらいで、今までの役場経験とは全く異なる、財政という部署に異動になった事も大きいと思います。今となっては、地方自治財政の基礎を学べた事は、大きな力になっていますが、当時は、今までの仕事に関われない虚しさみたいなものが強く、それを埋めるためにもペレット研究会に参加したり、足よろフットパスなるものを立ち上げてみたりと役場職員でもできる範囲で地域振興や町おこしに取り組んでみましたが、公務員という立場と、個人の「これがいい」という感覚に、常に“違い”があり役場職員という立場に違和感を持ち始めたきっかけになったと思います。そんな感じで30代になってからは、役場を辞めて起業する形を考えはじめていました。最後の数年はいつ辞めるかというタイミングを見計らう状態が続いている感じでした。経験年数や年齢的にもこれ以上職員でいると役場の中での役割も増して辞めるタイミングがなくなりそうだと感じていた頃に、チャレンジショップができたり、キャンプ場の再整備が検討されていたりと、起業の足掛かりになりやすい状況が生まれたので、このタイミングだと思い2016年の春に、この年度で辞めると決めました。

～役場職員から、民間事業者になり、地域の見え方など変わりましたか？

立場が変わった事で、日々接する方との会話など大きく変わりました。足寄にはまだまだ人材も豊富で、魅力がいっぱいあると、役場時代よりも強く感じています。地域内での繋がり方で、まだまだいろいろな可能性があ

るように見えてきました。退職時から事業開始直後は、自分自身や事業所として地域におけるポジションとか役割をしばらく探す作業が必要だと思っていましたが、1年半が過ぎ、既に何となく見えてきた気がしています。この辺は、商工会青年部に加入した事が大きかったと思います。異業種が集まる商工会青年部で、地域への希望と危機感を共有しながら、青年部事業に取り組む事で、地域の中のエアポケットになっている部分を、元役場職員という変な経歴の自分が埋められるところがありそうだという事が見えてきました。

～アウトドア系の事業はどのような事をしているのですか

イギリスメーカーCWS 社のテントを北海道内唯一の代理店として扱わせてもらえているので、このテントのレンタルと販売事業を行っています。足寄町内での野外体験事業などを広げていきたいと思っています。コットン生地のできるテントで、ナチュラルな風合いが足寄の景観にも合っていると自負しています。アウトドア用品のレンタル事業というのが、商品として市場に認知されていないので、需要の掘り起こしからはじめないといけないところですが、足寄の雄大な景観の中で、ディープに足寄町を楽しめるようにしていきたいです。

現在、足寄湖や牧場などでもキャンプできるように準備しています。野外で地域の食を体験できるようにキッチンカーの導入も検討をしています。今期はまだ、準備の年というところで、来期のアウトドアシーズンに向けて、これから本格的に営業など強化していきたいと思っています。



～今後のビジョンは？

改修予定の里見が丘キャンプ場に関わらせてもらいたいと思っています。

現在行っている、レンタル事業でキャンプ客のニーズ等の把握を行っており、その経験を足寄市街地にも直結している里見が丘キャンプ場に活かしていきたいと考えています。また、足寄・本別・陸別の商工会青年部で3町の「食」ブランド研究会に参加していますが、その研究会メンバーの中で出資して間もなく設立予定の会社法人「三ツ町商会」へも参加して、「食」をきっかけに地域に興味を持ってもらえる人口を増やしていきたいと考えています。余談ですが、会社名の「**FeetMeet**」も5年くらい前から決めていました。たまに、「肉？」と言われますが、**meat** じゃないです。会う・集まるの **meet** です。足寄の「足」と「寄る」を無理矢理英単語に当てはめて、**FeetMeet** です。「足」も **foot** ではなく、複数形の「**feet**」にする事で韻を踏めたところが気に入っています。会社名が表すように、足寄に多くの足が集まってくるような地域を目指していきます。

事業概要

名称 合同会社 **FeetMeet** (フィートミート)

代表社員 佐野 健士

住所 本所 足寄町南4条3丁目

店舗 (コミュニティカフェ **FeetMeet**)

足寄町北1条1丁目3

電話番号 050-6525-6210

事業内容 飲食店営業、アウトドア用品のレンタル・販売

設立 2017年4月

以上佐野部員でした。裏面に続きます。

続きまして儀間美沙子部員です。



儀間美沙子（ぎまふさこ）

1987 年 端野町（現北見市）出身

2005 年 北海道立北見北斗高等学校卒業

2009 年 北海道教育大学札幌校地域環境
教育課程卒業

2009～2017 年 独立行政法人環境再生保全
機構勤務

2017 年～ 一般社団法人

びびっどコラボレーション勤務

2018 年 GuestHouse ぎまんち開業

<経歴>

私は端野町(現北見市)の山あいの家で育ち、周囲に自然がある環境や当時からニュースでも取り上げられていた環境問題に興味を持ったことから、大学で環境保全のことを広く浅く学びました。就職活動の際も、環境保全に携われる仕事を探していて、地元の公務員か神奈川県にある前職の環境再生保全機構でどちらに就職するか迷いましたが、若いうちに都会の波にもまれた方がいいだろうと思い、神奈川県に行くことにしました。

前職の独立行政法人環境再生保全機構は、環境省の外郭団体で、主に公害による健康被害の給付金関係の業務を行っています。私自身は、総務や、助成をしている NPO などの環境保全団体に関する広報、アスベストの健康被害救済金の事務などをしていました。

<移住のきっかけ>

30 歳にさしかかるところ、夫が狩猟を始め、田舎に移住したいと言い出しました。私も漠然と北海道に帰りたと思っていましたので、じゃあ北海道へ移住しよう！と、移住のイベントやインターネットで情報収集をはじめました。その中で、実家の北見に近く、気候もいい十勝に絞って移住先を決めようということになりました。

東京で十勝の移住イベントに参加した際、びびっどコラボレーションの櫻井代表に会い、移住体験モニターツアーを紹介されたことが足寄町とのはじまりです。2016 年 9 月にモニターツアーに参加し、自然の豊かさや、足寄町民のキャラの濃さ、移住者を受け入れる寛容さ、飲み屋の多さ（笑）に魅力を感じ、年末には夫が地域おこし協力隊、私はびびっどコラボレーションの職員として仕事が内定し、住まいも空き家を紹介してくれたため、2017 年春に移住することに決めました。

<びびっどコラボレーション業務>

びびっどコラボレーションでの私の業務は、移住体験モニターツアーの企画運営、移住イベントへの出展、移住体験住宅の管理などの移住サポート業務、その他に放牧酪農のパンフレットづくり・販売のお手伝いなどしています。

移住体験モニターツアーは、町から受託した事業で今年 3 年目になり、延べ 80 名ほどの方に来ていただき、就農体験や町内の魅力をご案内しています。その中からは私たちのように実際に移住したり、東京でのイベント

を手伝ってくれる方がいて、足寄町の関係人口が少しずつ広がっています。

<足寄町の感想>

足寄町はとにかく町の人が魅力的だと思います。

動物や自然と向き合って仕事をしている方々は通常のサラリーマンとは違い、新鮮で刺激的ですし、情熱を持って目をキラキラさせながら仕事の話をする人なんて、前職では滅多にいなかったのもとても魅力的です。

民泊開業したてのころ、梅雨のような長雨で地下から水が出てきたときには、商工会青年部の皆さんがすぐに駆け付けてくれ、物などをどかしてくれたりしたことがありました。神奈川にいた時は、お金を出せば業者が来てくれますが、近所との人間関係が希薄で、こんなにすぐ駆けつけて助けてくれる人はいませんでした。足寄町に来てから、日々人と人との関わりの大切さを感じています。

<GuestHouse ぎまんちを始めた経緯>

移住を考えているころ、民泊の法律が変わって手続きが簡単になるという報道があったのと、民泊は手に職のない私たちにとってぴったりだと思い、調べていました。

移住1年目は、まだ知り合いが少ないし、開業したこともないため、とにかくありとあらゆる会合に参加してネットワークを増やし、創業セミナーや帯広信用金庫のとかちイノベーションプログラム、熱中小学校などで勉強をしました。

移住2年目を迎えるにあたり、セミナーなどでインプットするだけでなく行動に移していかなければならないと感じていた私たちは、民泊新法が2018年6月に施行されることを受けて、実際に民泊できるような町内の空き家を手あたり次第探しはじめました。足寄町の方々はとても親切で、数件空き家を紹介していただき、縁あって現在の西町の建物で開業することができました。

<今後の展望>

GuestHouse ぎまんちの空間を利用したイベントや、レンタルスペースとして貸し出すなどできないかと考えています。また、私自身は自然環境に携われる仕事もしていきたいと考えていますので、足寄の豊富な自然環境に触れられる体験型のツアーなどもしていきたいなあと考えています。

<事業概要>

名称 GuestHouse ぎまんち

代表 儀間雅真

住所 足寄郡足寄町西町2-4-7

電話番号 080-4504-8641

事業内容 民泊

創業 2018年6月



次回予告

回りのインタビューリレーは豊田慶人監事・儀間雅真部員です。お楽しみに！

